令和６年５月３１日

泉南市議会議長
　　岡田　好子　様

厚生文教常任委員会
　　委員長　堀口　和弘

厚生文教常任委員会　行政視察報告書

下記の通り行政視察を実施いたしましたので、その概要を報告いたします。

１．【視 察 日】　　令和６年５月９日（木）～令和６年５月１０日（金）

２．【視察参加者】　委 員 長　堀口　和弘　　副委員長　添田　詩織
　　委　　員　井上　実　　委　　員　澁谷　昌子
　　委　　員　楠　　成明　　委　　員　石橋　正敏
　　委　　員　河部　優（副議長）　委　　員　岡田　好子（議長）

３．【視 察 先】　①北海道北広島市（KUBOTA AGRI FRONT）5/9
　　②北海道北広島市（北広島市役所）5/9
　　③北海道札幌市（星槎もみじ中学校）5/10

４．【調査事項】　①農業学習施設の取り組みについて
　　②小中一貫校の取り組みについて
　　③不登校対策の取り組みについて

５．【視察目的】　農業における、地球環境問題、就農人口の減少、フードロス問題など様々な課題を最新の技術を駆使した解決への取り組み内容を学習施設として広く一般に周知することについて参考とするため。
　泉南市立小中学校再編計画において、令和１０年度の義務教育学校設置を皮切りに、小中一貫校を順次設置していく計画となっているため、小中一貫教育を全中学校区で一斉実施した先進市の事例を調査研究することにより、本市の小中一貫校設置の参考とするため。
　また、不登校問題に取り組むにあたり、不登校特例校の不登校対策の取り組みについて参考とするため。

６．【概要】

１．北広島市（KUBOTA AGRI FRONT）

〇農業学習施設の取り組みについて

北海道ボールパークＦビレッジ内に農業学習施設として令和５年６月30日にグランドオープン。

クボタ（株）として、一般向けのこのような施設は初めての取り組みとのこと。

コンセプトは、“食と農業“の未来を志向する仲間づくりの場。農業に携わる人、技術を開発する人、そして食べる人。こどもから大人まで、あらゆる人が、“食と農業“に向き合い、未来のためにできることをともに学び、考える場所をめざす。

シアターエリアでは、映像により“食と農業“の課題を食システム全体で解決する大切さについて、テックラボでは最先端の環境負荷にも配慮されたアグリテックによる屋内栽培を体感することができる。テックラボで栽培されている野菜は、アグリフロント内のカフェで食べることができる。

機械化されており、成長も管理できるため効率的かつ定期的な収穫が可能。就農者減による人的不足も解消可能。

課題としては、オープン後１年弱であるが、まだ認知度が低いためもっと多くの方に来てもらえるように周知したいとのこと。

施設の概要説明を受ける

アグリテックによる栽培の様子

機械化された室内栽培プラントの様子

クボタアグリフロント前

２．北海道北広島市（北広島市役所）

〇小中一貫校の取り組みについて

中一ギャップ、予測不可な社会、少子化・核家族化、地域コミュニティの弱体化などの社会的背景から、学校、家庭、地域が一体となって「子どもの連続した学び」を支える体制を構築し、義務教育の９年間を修了するにふさわしい「生きる力」を育成することをねらいとし、平成 30 年から北広島市 6 中学校区（小９中７校）にて一斉にスタートした。

設置形態は、校舎施設分離・隣接型。基本は既存の校舎を使っての小中一貫教育で、メリットとしては、施設の改築、増築が不必要であること、規模によるカリキュラム編成の困難さがないこと。

デメリットとしては、乗り入れ授業や、小中合同事情の際の小中学校間の移動時間、費用の確保と、児童生徒による活動が制限されること。

〇北広島市のめざすこども像と推進のための５つの基本方針

「大志をいだき心豊かにたくましく生きるこども」

＜方針１＞中学校区での「めざす子ども像」の共有

＜方針２＞中学校区での育成すべきししつ

＜方針３＞義務教育９年間を見通した一貫した指導

＜方針４＞子ども同士や教職員間の交流と協働による教育活動

＜方針５＞コミュニティ・スクールを基盤とした学びと支えあう教育環境づくり

〇各中学校区における取組

① 小中一貫教育運営組織

・各中学校区ごとに、運営組織をつくり、運営委員会の下に専門部会、教務部会、生徒指導部会、研究部会、事務部会を組織。

② 小中一貫教育進行管理表

③ 全体研究会（年４回程度）

④ 各部会の活動

・教育課程、乗り入れ授業

・きたひろ夢ノートの活用実践

・中学校区スタンダード、きまり

・研究主題・研究内容の設定、研修会

・教育環境の整備

⑤ 教科部会

・重点単元の設定（教科系統表、指導計画）

・授業交流の計画

・乗り入れ授業、出前授業、合同授業の実践

⑥ 合同研究の推進

・研究の一本化

・中学校区研究主題の設定

・系統性のある指導

・きたひろしま型指導案による授業の構築

⑦ 大志学（キャリア教育）の推進

・系統的な全体計画の整備

・きたひろ夢ノートの確実な活用

小学５年生～中学３年生までを対象に、夢を実現するプロセスのためにするべきことをイメージできるように記録し、5 年間の振り返りができるノート

〇懸案事項・課題など

・児童数の減少などにより、学校適正規模・適正配置の観点からも、一部の地域では義務教育学校化の議論が出始めている。

・既存施設を活用してやってきたが、学校施設の老朽化もあり、だれもが生活しやすく環境を考慮した学校施設、また、コミュニティ・スクールの拠点となり、避難所としての防災機能を有する学校施設としての在り方など、学校適正配置等審議会に令和６年度答申を受ける予定。

研修の様子①

研修の様子②

北広島市議会議場

北広島市役所受付前

３．北海道札幌市（星槎もみじ中学校）

〇星槎もみじ中学校の設立の経緯

・1972 年、鶴ヶ峰セミナーという塾を設立（今でいうところのフリースクール）ゲームをしたり、絵を書いたり、外に遊びに出たり、生徒のやりたいことをやるという塾。何かやっているな？面白そうだなとなり、段々生徒が増えていったのが始まり。問題児として扱われた子どもたち、学校にはいけない子どもたちが集まった塾。→　学校に行けなくなった子どもたちの為の学校を全国に作ってきた。

・2014 年、星槎もみじ中学校開校。もみじ台は課題のある地域で、65 歳以上が７０％であり、子どもたちがいないため、もみじ台小学校が閉校になったところを、買い取って開校。当初９名でスタート、現在 167 名。令和４年までは 100 名以下であったために赤字経営。この 2 年で知名度が上がり生徒数が増えた。

・2023 年度までは、不登校特例校の名称であったが、本年度から学びの多様化学校として新たなスタート。

〇星槎もみじ中学校のめざすもの

・子どもたちが主人公になれる学校。主体的に参加できる学校。誰にでも対応できる学校。

・不登校の原因は、いじめや人間関係のトラブルだけではない。学校が自分が大切にされていない場であるから。失敗して怒られ、学校に行けなくなることもがたくさんいる。

・本来既存の学校が多様性をみとめる対策をすれば、学びの多様化学校は不要。一番の原因は教員の言動。教員が子どもを否定し、枠にはめてしまう。公立は特に指導要領に縛られているため、みな同じという指導をしてしまう。星槎もみじ中学校は、私学の為 850Hでもいいが、学力向上のため、学習時間は 1015H をキープしている。ただし、その時間の使い方は柔軟に対応している。

〇多様な学びのシステム

・多様化というが、どの学校でもみんな一緒にという価値観が求められてしまう。教師が普通はこうであるべきと言っている。普通とは何なのか。とびぬけて数学ができるが、漢字が書けない子もいる。英語は１級を持っているが算数の計算ができない子もいる。歴史の江戸時代だけが大学教授並みに詳しいという生徒もいる。いずれも、集団の中では違和感を持ってしまう。そのため、一人一人に合わせた、個別指導計画（ステラプラン）を立て、生徒に合わせた授業をつくっていく。同じ部屋で勉強をしていても、みな少しずつ違うことをしている。主にタブレットで個々の課題を行っている。

・クロスタイム…月・火・木の６時間目に３学年縦割りの選択授業。優秀な生徒は、全国にある星槎グループの高校の授業を受けることもできる。さまざまな企画に取り組めるもみじタイムは教師がオリジナルの授業を企画し、生徒が好きなものに参加。１人しか参加のない授業も。

・ハイブリッド授業…対面授業と Zoom を併用。オンライン参加も出席と認める。登校が難しいと感じた日はオンラインで参加可能。午前オンラインで、

午後から登校なども自由。

・ソーシャルスキルトレーニング（SST）…社会でうまくやっていくコツを学ぶため、生徒に必要な課題を見極め、ロールプレイやディスカッションなど、多様な形式で実践的な力をやしなう。

・もみじルーム…少し休みたい、集団から離れたい、気持ちを落ち着かせたいなどの時、利用できる部屋を配置。静かに自習したり、休んだり、過ごし方も自由。

・カウンセリングルーム…常勤の職員がカウンセリングを実施。基本的には予約だが、状況に応じて急な相談にも対応。保護者のカウンセリングも行う。

・フリースクールすきっぷ…週 1～週 3 まで、通うペースを自分で決めて仲間とかかわりながら楽しく学べる場として設置。

〇入学までのながれ

・問い合わせや相談は、電話やメールで対応し、入学までに個別相談、見学・体験入学などを複数回経て出願となる。小学校 4 年生から 6 年生まで参加可能なオープンスクールは毎月開催。

・保護者も含めて相談、見学を行うが、入校を判断するのはあくまで子ども自身。

〇保護者とのかかわり

・不登校生徒の多くは家庭に課題を抱えている場合が多い。星槎もみじ中学校は、私立のため、金銭的な課題は比較的少ないが、それ以外の問題は多々あるため、入学までのプロセスの中で、本人や保護者と十分に個別面談を重ね、生徒の状況を把握した状態で入学してもらっている。そのため、入学までに保護者も生徒も、お互いに顔と名前が一致する。

・PTA 活動はないが、保護者会として、保護者同志で子どもの自慢をし合う、悩みを相談しあうなどできる場がある。その場に教師も参加し、アドバイスをすることがある。

〇課題について

・私立の為、授業料などにより運営しており、一人一人個別の指導をきめ細やかにやっているため、運営が非常に厳しい。

・教員の給与も公立学校の教師より低いため、志のある方でないと続かない。

・一人一人に寄り添っているため、一定の指導方法が、次の生徒に使えるものではないため、指導方法の蓄積ができない。いつも、新しい計画であることが特徴でもあり課題でもある。

研修の様子①

研修の様子②

もみじルーム

もみじアートフェスの説明

フリースクールすきっぷ

カウンセリングルーム

星槎もみじ中学校前

７．【所感】

農業学習施設 KUBOTA　AGRI　FRONT では、子ども達が農業についての学びを通して、「食」の様々な課題への知見と理解を深めるための様々なアプローチについて知る事が出来た。

北広島市教育委員会においては、クラーク博士の「青年よ大志を抱け」との言葉をもとにしたキャリア教育としての「大志学」を中心に、小中一貫教育についての取り組みについて学ぶ事ができ、泉南市が今後進める小中一貫教育に対する参加議員の理解を深める事が出来た。

星槎もみじ中学校については、これまで公立学校における不登校対策への取り組みではなく、私立による「学びの多様化学校」（旧不登校特例校）における児童生徒の教育機会の多様化や、中学校単独ではなく小学校段階ではフリースクールとして、また中学卒業後の進路選択のひとつとして高校や大学の備えており、不登校に対して連続的な支援を行うものであった。

また、児童生徒の個別支援計画の策定と教職員での共有、また児童生徒の特性に応じた制度的、物理的な支援がメニューとして明確にされている事から、今後の泉南市における不登校対策の参考となるものが多く、参加議員もレクを聞くだけではなく、同校の児童生徒と直接触れ合うなど、大きな収穫を得る事が出来た。

今回ご協力いただいた、株式会社クボタ本社、北広島市教育委員会、学校法人国際学園に感謝するとともに、今後の泉南市の施策に反映させていきたい。